

派遣報告：第52班



医師 美濃部
PSW 藤田
Ns 塘

大船渡プラザホテルの窓より

活動の概要

- **活動期間**

- 平成24年3月13日（火）～3月16日（金）

- **活動地域**

- 大船渡町、立根町、末崎町、
三陸町（綾里、甫嶺、吉浜）

- **活動内容**

- 診察・訪問（仮設、自宅、こころの相談室）
- 保健介護センター一定例ミーティング
- コンサルテーション（宮田仮設 松崎小仮設）
- 活動備品の荷造りと発送

ケース内容

症状	件数 (訪/相/tel)	継続 (M/F)	新規 (M/F)	処方	備考
AL	8 (8/0/0)	8/0	0	0	
PTSD	0	0	0	0	
不安・不眠	1 (1/0/0)	1/0	0	0	
認知症	2 (2/0/0)	1/1	0	0	

ケース①：継続「AL問題」

- **男性、50歳、独居（宮田仮設）**
 - 仮設玄関に意味不明な張り紙をするなど近隣の住民に不安を与えている

対応

15日（木）仮設集会所で支援員、自治

会

長、市保健師を対象にコンサルテーションを実施

ケース①宅にて



ケース②：「AL問題」

- 男性、60歳、独居（末崎小仮設）
度々救急搬送されている症例であり
AL問題を抱えている。

支援員、社保協を対象に仮設集会所でコンサルテーションを実施

埼玉に看護師の娘がおり、当センターでARPを行う条件は揃っている。

ケース② コンサルテーション風景 末崎小仮設 集会所



ケース③：継続「AL問題」

- 男性、76歳、自宅（三陸町吉浜）

- 断酒が継続できている。

今後は断酒会等に参加していくことで十分断酒を継続できる症例である。

妻が大船渡病院に精神科に繋がっていることが、少々気になる。

保健介護センター定例ミーティング

- 参加チーム

大船渡病院、社会保険協議会、気仙薬剤師会、
あいちネット、県保健所、市保健師







まとめ

- 震災から1年を過ぎて
 - 震災後1年が経過して当センターのこころのケアチームによる支援も最終回となった。大船渡の平地部にも屋台村や夢商店街などが立ち並ぶようになり、終戦後の日本が屋台から街に変化したように、大船渡をはじめとした東北はこれから復興の道をたどる予感を感じた。しかし屋台の女将さんは被災者であり、屋台の中での話題も地震や津波がほとんどである。元の生活を取り戻すためには、まだまだ長い時間がかかることを実感した。私達の支援はこれで終わりではなく、いろいろな形での支援を継続していく必要性を感じた。

今後の復興をお祈りしています

